



池之内では男の子は十六才になると「農奉行」と称して、子供の日に牛の宮にお参りする行事を行ないますが、そこにはこんなお話も——。昔、六年の約束で農家に年季奉公する少年がいたんです。少年はよく働きましたが、三年が過ぎた時病気で死んでしまいます。すると一頭の黒牛がやってきて残りの年季を働き、その後少年を追うように死んでしまいました。人々は少年の霊が牛になったのだと思い、小さな塚に丁寧に葬りました。それが「牛の宮」です。牛の宮は子供たちに、生きることの厳しさや責任を語り伝えているのです。

(牛の宮 2003)